

1月16日、親鸞聖人のご命日に本願寺へお参りしました。車で約2時間、遠いようですがあっという間に到着します。阿弥陀堂が修復中の為、阿弥陀さまが隣の建物(御影堂)に移されており、普段は離れている親鸞聖人の御影と阿弥陀さまが並んで拜めるという珍しいご縁でした。

御影堂には全国よりたくさんの方がお参りされておりました。私などは意識しないとお念仏できませんが、信心を得た人というのは、無意識のうちにお念仏が口からこぼれ落ちるようです。ヒンヤリとした畳に座っ

ていると、あちこちから「なまんだ〜ぶ、なまんだ〜ぶ」の声がもれ聞こえていました。僧侶による雅楽の演奏にあわせてお勤めが始まる時は、とても宗教的な雰囲気を感じる事ができます。何百年経っても、変わらずあり続けて欲しい情景です。

ご法要は本願寺にて毎月16日、親鸞聖人のご命日「shinran's day」として開かれていますので、ぜひみなさんも参拝してみたいかがでしょうか。だれでも無料で参加できます。

本願寺では毎月16日に書道や念珠作りなどの体験や参拝ツアー、フリーマーケットなどいろんなイベントを開催しています!

毎月16日は Shinran's Day

親鸞聖人の日



善称寺の「ゆずり葉の碑」に申し込まれたご縁で帰敬式を受けられた方に、その模様をレポートしていただきました。丁寧に書いてくださり感謝です。これを読んで「わたしも!」という方が一人でも増えると嬉しいですね。

京都・西本願寺
帰敬式に、行ってきました。



善称寺さんにお参りに行った際、「帰敬式を受けてみませんか?」と住職から言われた事がきっかけでした。「私ですか?」まあ、仏事のことでおからない事が有れば住職に聞いていたのを、熱心だと思われたのでしょうかね?

その時頂いた冊子には、「帰敬式」と「法名」について書かれていました。「帰敬式」は仏の弟子として又、門徒としての自覚を誓う儀式。決して僧侶になったり、出家するという事ではない。頭は丸めない? 等々このあたりはしっかり確認しました。(笑)それらはまた別に得度式というものがあるそうです。

「法名」は「帰敬式」を受ける事で、ご門主様より仏弟子として頂く名前。浄土真宗で「釋〇〇」とよく見かけるそれが法名だと知りました。そしてそれは生きている間に頂く(帰敬式を受ける)ものなのだと。私も含め知らない人が多い様で、その場合は亡くなった時に法名を受けるそうです。

突然の話だったので少し考える事にしました。家に戻りネット検索すると、成人式と同時にとか、子供からご年配の方まで受式されていて、純粹に「門徒の宣言」というモノの様でした。私の様な者が仏弟子って...? まあ~出来の悪い弟子って事でいいか? 受式^{みょうがきん}冥加金1万円が必要なものの、法名が頂けるなら^{もら}貰いたい。また、内願(※)なら希望する文字を付けられると聞き、動機は多少不純な気もしましたが、住職に帰敬式の申込みをお願いしました。

今年、52歳で他界した父親の年に追いついた私。仏事・宗教なんてまった